

- 団体名: 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま
- 所在地: 〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5
- TEL/FAX: 024-563-6255
- E-mail: info@beans-fukushima.or.jp
- URL: <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

以下は11月29日(水)福島会場でのプレゼン資料です



特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

平成29年11月29日

江藤 大裕(えとうだいすけ)



●設立のきっかけ

学校に行けない、学校に行きにくさを抱えた子どもたちのフリースクールから始まりました。学校に行けないというだけで、自信を無くした子どもたちにとって、ありのままの自分を認めてもらえる、「自分は大切な存在なんだ」という「自己肯定感」を育むことができる「安心できる居場所」が必要でした。ビーンズふくしまは、子どもたちが本来持っている「生きる力」を取り戻すことができる、そんな場所としてスタートしました。

●団体の目的

当法人は、不登校の子どもやひきこもりの青少年の親、市民、学生など広範な人々と協同して、不登校の子どもたちやひきこもりの青少年たちのために、その生き方と学習を支援するとともに、広く青少年が自分らしく生きるための支援を行い、それをもって社会の創造に貢献することを目的とする。



私たちの思い、考え

□地域の課題

- 福島県の若年無業者(15歳～34歳)数
1万人/38万人 2.6%
- 不登校・貧困・震災など様々な社会背景を抱えた子ども・若者にとって支援の手が届きにくい現状があり、スムーズに地域社会と繋がっているといえる状況ではない。



○目指す地域の姿

- 子ども×若者×高齢者×NPO×企業×行政
- すべてが繋がりがあい若者たちの力を中心とし、彼らの力が地域でいかされる社会を創りたい。

活動紹介

●フリースクールビーンズふくしま

当法人の始まりである主に不登校の子どもたちを対象にした居場所

●うつくしまふくしま未来応援プロジェクト、貧困対策事業

震災後の仮設住宅の学習支援や生活保護世帯の学習支援

●「みんなの家@ふくしま」

福島の子を中心に、若者、地域の大人が集う多世代交流拠点

●ユースプレイスinふくしま

引きこもりや対人不安など様々な生きづらさを抱えた若者が交流やボランティア活動を主体的に取り組むことができる場

●ふくしま若者サポートステーション

若者の働きたいを応援する就労のサポート機関

今回、企業様と特に協働を希望するのは上記2事業



活動紹介



花植えボランティア作業



保育園お祭りボランティア



自分たちで収穫した野菜を使用したカフェの開催



リンゴ収穫体験



猪苗代湖清掃活動



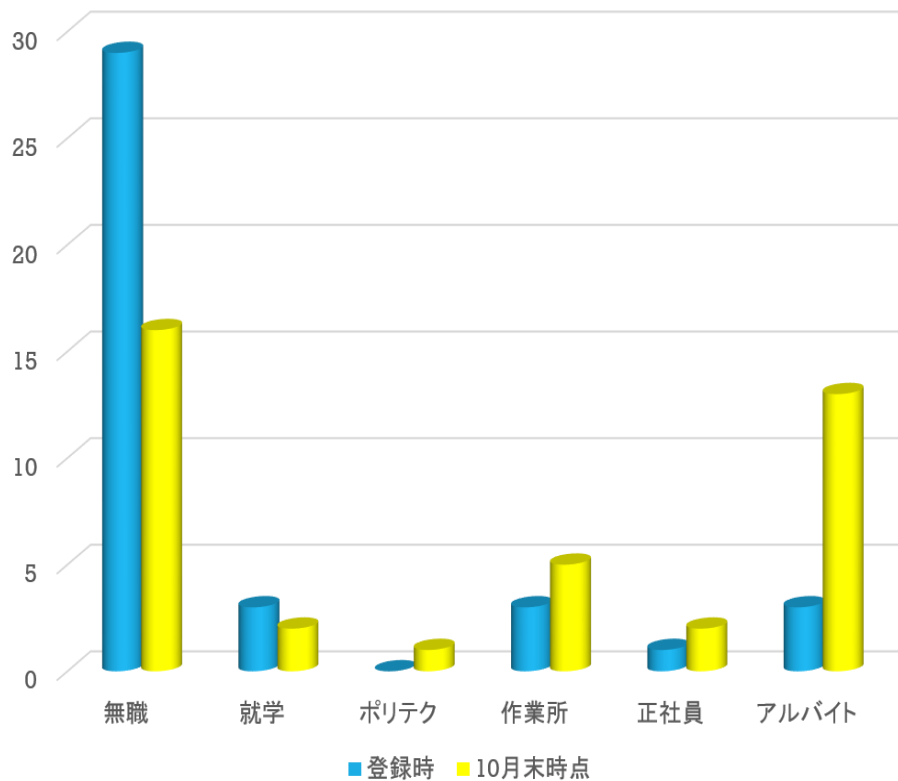
ビーンズ畑での畑作業

活動状況【ユースプレイスinふくしま】

	平成28年度	平成29年度	増減
参加人数	410名	667名	+257名
回数	89回	104回	+15回
平均参加人数	4.6名	6.4名	+1.8名
登録者数	33名	39名	+6名
		うち継続24名 新規15名	

活動後の変化

利用者動向



◇利用者の感想

- 楽しい1年になった
- スタッフ・若者たちのやさしさがここにはある
- やりたいように1年を過ごせた
- みんなの明るさ、元気の良さで自分も引っ張られた
- 皆さんと出会えてよかった
- 遊びに疑問を持たずに遊びつくせた
- 就活だけではなく楽しむことができた

◇利用者の今後の目標

- アルバイトや就職がしたい
- (参加者自身による) 自主的活動を充実させたい
- いろんなことに挑戦したい
- 学校に通いたい
- ゆっくりと外でできることを増やしていきたい。

活動後の変化

参加者の多くは引きこもりや不登校、様々な困難や挫折を経験し一歩踏み出したいと思いつつ、他者との交流がない関係性の孤立に悩んでいる状況が多い。そんな彼らにとってユースプレイスという場があることで外に出る“きっかけ”となり、そして他者との経験・体験を紡いでいくこととなった。

様々な背景を持つ若者たちがまずは自分らしくいられる居場所に集い、自己肯定感を育み、そこから少しずつ自分なりの一歩を踏み出し始めた。コミュニケーション講座や料理企画で交流を深め、**農作業や地域と関わるカフェやボランティア活動や地域のイベントに参加することで大きな自信をつけることができた。**

また、仲間同士の関係性ができてくると自主的活動が発足し始めた。スポーツ活動を行う“運動部”が立ち上がり企画・運営・チラシ作りまで参加者自身で行う活動が始まる。それに呼応するようにほかの利用者も勉強や読書を中心とした“文化部”や“英語クラブ”などを立ち上げていく。様々な利用者が企画に関わることで横のつながりも一層深まっていく様子がうかがえる。

居場所では楽しむという経験を通して、仲間や環境の力で若者たちをフォローアップしてきた。結果として就労・就学や作業所へのリファーにつながっているが、何よりも就労意欲の出てきた若者が増加してきているのは大きな成果である。

協働に向けて

活動・組織での悩み、困っていること

- 震災後の福島において義務教育を過ぎ、福祉サービスも受けることができないいわゆる“グレーゾーン”の若者には支援の手が届きにくい。
- 居場所事業や就労支援事業は行政の委託である場合が多く、事業継続のための安定基盤(資金)がない。
- 若者の自立へ向けた社会参画の機会がまだまだ少ない現状がある。



協働に向けて

ボランティア

Ex.草むしり、清掃作業、軽作業など

職場体験

若者の仕事体験及び雇用マッチング

農産物販売

場所、機会提供

イベント・シンポジウムの共同開催

共同
商品
開発

資金
提供

企業様に向けてメッセージ

ビーンズふくしまは18年間活動してまいりましたが、地域の皆様、企業の皆様との連携という部分ではまだまだ充分ではないのが現状です。企業の皆様と連携を深め若者の一歩を支えることのできる地域、たくさんの笑顔を生み出すことのできる地域を共に創っていきたいと考えています。

また今回の協働がぜひ企業様にとっても価値あるものになりたいと考えています。子ども、若者、地域のためにぜひとも企業の皆様にはご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

